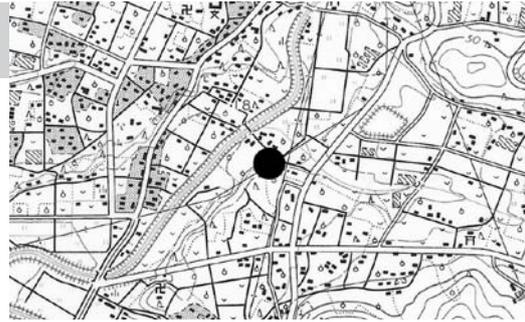


た り は た
多 り 畑 遺 跡

所在地 豊橋市石巻町字札辻
(北緯34度47分43秒 東経137度26分19秒)
調査理由 道路改良事業(主) 東三河環状線
調査期間 平成21年10月～平成22年2月
調査面積 1,440㎡
担当者 池本正明・本田英貴



調査地点(1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は主要地方道東三河環状線道路改良事業にかかる事前調査で、本年度5月に実施した範囲確認調査(本書60頁)の成果により、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成21年10月～平成22年1月、調査面積は1440㎡である。

立地と環境 多り畑遺跡は石巻山の西麓、神田川と三輪川に挟まれた丘陵の北側、神田川左岸側に立地している。豊川左岸の段丘縁部は遺跡の集中域として知られ、多り畑遺跡の立地する丘陵の南側には東屋敷遺跡、神田川対岸の丘陵上には高井遺跡群などが分布している。

調査の概要 調査区は段丘の北端部に位置する。中央部がほぼ平坦で、検出面の標高は27.6m。北東に向けて緩やかに傾斜し、北端部ではこれが26.4mとなる。ほぼ全面を黒色土(いわゆる黒ボク)に覆われるが、北部～北東部に厚い堆積が観察できる。なお、遺構検出は主として黒色土の上面で行った。

縄文時代早期 調査区北側の比較的狭い範囲で押型文土器が出土し、当該期に属する可能性を持つ土坑が数基確認されている。このうち建物の可能性を持つ219SIは、直径2.4m程度のやや歪む円形を呈する。周囲には垂木坑の可能性を持つ小土坑が巡るが、いずれも明瞭に内傾しない。

弥生～古墳時代 調査区北部で弥生時代後期の土器棺1基、調査区中央で古墳時代の竪穴建物1棟を確認しているが、遺構・遺物ともに乏しい。

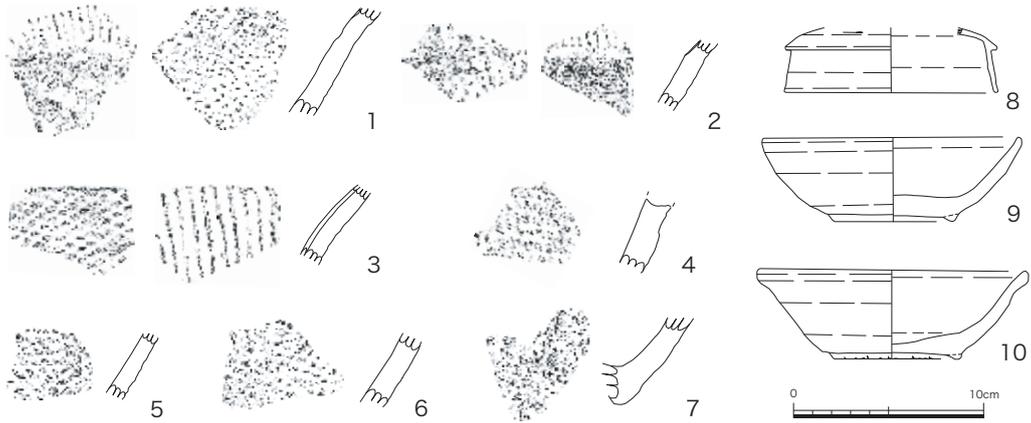
中・近世 調査区中央から南側に幅0.4m程度の蛇行する小規模な溝が掘削され、周辺には掘立柱建物も確認できる。出土遺物が乏しいが、ほとんどが中世後期～近世に属するものと考えられる。また、中世前期に属する土坑も散在しており、埋土中から山茶碗などが出土している。

まとめ 今回の調査では、複数の時期に渡る遺構群が確認できた。中でも注目したいのは縄文時代早期である。検出された遺構は乏しく不明確な部分も多いが、押型文土器の出土量はまとまったものとなっている。これらは外面に楕円押型文、内面の一部には斜行沈線を施すものがほとんどで、時期幅の狭い一群となる可能性を持つ。



(池本正明)

219SI



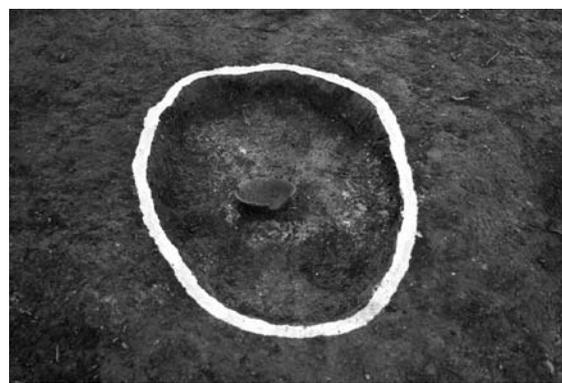
出土遺物実測図(1~7 押型文土器、8 須恵器、9・10 山茶碗)



調査区全景(上空から)



土器棺



中世前半の土坑